

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ●今日の課題や子どもの実態に合った教育課程を編成するとともに、自ら追究・探究できる課題設定や活動・交流を位置付けるなどの授業改善を行う。 ●教育DXの概念に基づき、子どもの様々な学び方を広げ、学習の基盤となる資質・能力を育み、社会の変化に柔軟に対応できる教育活動の充実を努める。 	A	子ども達が、自分の学びを選択して学習できるよう、意図的に、仲間と意見を交流して多様な考えを取り入れたり、深めたりする活動を位置付けた授業作りができた。 毎日の「ここタン」の入力や、ロイノートを使った授業作り等を行うことで、子どもたちが、更にタブレットを使いこなせるようになってきた。	授業では「学び合い」が、より自然に行われていて良かった。発表する時に、「前に出ます。」「はい、どうぞ。」など、言葉のキャッチボールを大切にしている授業を見ることができた。タブレットのパワーポイントを使って、調べてきたことを発表するなど、子どもたちのICT機器活用能力が、更に高まっていた。時代の変化に対応している様子が見られる。	仲間や地域の人と、更につながる「ぎふMIRAI's」が展開できるよう、今年度の実績を活かして教育課程を工夫する。 「学び合い」が更に深まるよう、意図的なペア作りやグループ編成に力を入れる。 子どもたちがDC教育の考えを理解し、自分の学びや課題解決のための道具の一つとして、当たり前のように選択できるよう、教育活動を充実していく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●「生命の尊厳」を最重要事項とし、学校運営協議会等、地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進める。 ●島中学校区小中一貫教育を軸とした小中一貫教育を推進できるよう、未来に生きる学び方創りを根幹に、子どもを育成する。 	A	変りつつあるPTA組織や地域の組織との折り合いをつけながら、学校運営協議会を核として、地域に根ざした教育活動を行うことができた。 未来に生きる学び方創りを根幹に、実践交流・授業参観を通して、小中一貫教育を推進することができた。特に「学び合い」については、組織的に推進できた。	PTA組織や自治会加入率などが変わってきているが、これからも、「城西見守り隊」や「城西青少年育成市民会議」「城西自治連合会」等で城西小を応援していきたい。 だんだんクラスの雰囲気が出てきて、それぞれよかった。低学年は低学年、高学年は高学年の良さがあって、良かった。	PTAや地域の組織が変りつつあることを踏まえつつ、学校運営協議会を核とし、地域の人的・物的教育資源を積極的に活用する。 次年度も、未来に生きる学び方創りを根幹に、組織を生かしながら、小中一貫教育を推進する。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●教職員のコミュニケーションの活性化と、各自が研究内容を決めて実践する研究体制を構築することにより、働きがいあふれる学校づくりを勧める。 ●高い同僚性をもち、子どもたちや同僚、自分自身のしあわせのために、組織的に動くことができる職員集団に高める。 	A	「学校課題仮設検証型」「個別課題探究型」、この2つの研究方法を職員が選択して校内研究で追究できるようにした結果、意欲的に校内研究に取り組み、職員間の意見交流も活発になって良かった。 校内研究に、「かがやき見つけシート」を取り入れたことで、お互いを認め合い、高め合おう雰囲気が更に醸成され、良かった。	授業参観での子どもたちのピュアで明るく元気な様子や、工夫いっぱい、教員一人一人の良さや個性がでている授業の様子をみて、城西小は、初任者の先生が、先生として何がスタンダードなのかを、きちんと学ぶことができる良い学校だと感じた。	教師の専門性と同僚性を高め「笑顔あふれる楽しい学校」を創造する。 「チーム担任制」「学年担任制」を実施する。 心身ともに健康で、充実したしあわせな未来「Well-being」を目指し、誰もが安心して自分らしさを発揮できる学校を創造する。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●激甚化・頻発化等が心配される災害や非常事態も想定し、子どもが思考力・判断力を働かせながら自分や周りの命・健康を守ることができるようにする。 ●様々な緊急事態・災害時を想定して「命を守る訓練」を計画・実践し、子どもたちに「自分の命は自分で守る」態度を育てる。 	A	垂直避難など、様々な災害や火災を想定した「命を守る訓練」を実施したり、情報リテラシーを含めた安全指導を行うことで、子どもたちに、思考力・判断力を働かせながら自分や周りの命・健康を守ろうとする知識や態度が育ってきた。 城西自治会連合会が主催する「城西校区防災訓練」のワークショップに参加し、地域での防災や減災について学ぶことができた。	城西見守り隊やボランティアで子どもたちの登下校を見守っている。見ている限りでは、子どもたちは元気で、交通安全等に気をつけて登下校していて良い。いじめを疑わせるような行動もなくて良い。 「城西校区防災訓練」に、多くの児童や保護者が参加し、地域と一緒に避難経路確認や防災訓練を行うことができ、良かった。	いじめを絶対に許さない学校風土を作る。児童一人ひとりを大切にするため、アセスメント「学校適応感尺度ASSESS」等を新たに実施・活用する。 次年度も、「安全教育」や「命を守る訓練」、「城西校区防災訓練」、「SOSの出し方に関する教育」等を、内容や方法を改善しながら、実施をしていく。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ●安全・安心に生活できるよう、校舎内外、教室環境を整備するとともに、施設設備を有効に活用する。 ●年間の教育活動を見通し、財務や納入金の計画的かつ適切な運用をする。 	A	安全・安心に生活できるよう、校舎内外の環境を整備することができた。 年間の教育活動や財務状況を見通し、極めて計画的に予算執行することができた。財務や納入金についても、適切に運用することができた。	授業参観の際、どのロッカーも、きちんと整頓され、使っていない教室の机・椅子までもが整頓されていて良かった。廊下に掲示された「鬼の絵」などの掲示は、作品も良かったし、丁寧に掲示やコメントされていて良かった。 財務や納入金について、計画的かつ適切な運用がされていた。	校舎や備品が老朽かしているため、より念入りに、教職員が安全点検を行っている。 決められた手順で、契約や消耗品等の選定、支出の手続き等が行われているか、確実に確認しながら、財務や納入金について、計画的かつ適切な運用を行っていく。